

今井誉次郎著作年表稿<1> (戦後)

牧戸 章

はじめに

本研究は、今井誉次郎の教育理論・実践・活動（運動）を明らかにするため、その著作を網羅することを目的とする。本稿は、その第一段階として戦後の著作について調査し得たものを掲げた。今後の綿密な調査のパイロット・サヴェイとして位置づけられるものである。なお、調査は実物の入手によったが、加えて次の文献を参考にした。

- | | | |
|---------------------------|------|------------|
| ○今井誉次郎著作集（全6巻） | 合同出版 | 1977 |
| ○復刻版 作文と教育 別巻2 日本作文の会 | 岩崎書店 | 1986. 6. 5 |
| ○復刻「教育科学国語教育」総索引（1号～100号） | 明治図書 | 1988 |

I 今井誉次郎の署名による刊行図書（編書を含む）

*は初版未見のもの、#は著作集（全6巻 合同出版）所収のものであることを示す。

- | | | | |
|------------------------------|--------|-------------|-----|
| 1. 農村社会科カリキュラムの実践 | 牧書店 | 1950. 3 | * # |
| 2. 帰らぬ教え子 | 東洋館出版社 | 1951 | * |
| 3. 小学三年生作文教室 | 文化研究社 | 1952. 3 | * |
| 4. 村に生きる教師 | 国土社 | 1953. 5. 10 | |
| 5. 新しい社会科教室 | 新評論社 | 1953. 6 | * # |
| 6. 童話と作文－三年生 | 宝文館 | 1954. 1 | * |
| 7. よい子にするために
－子どもの幸福を守る相談 | 厚文社 | 1954. 1 | * |
| 8. 平賀源内 | 国土社 | 1955. 4 | * # |
| 9. 続新しい社会科教室 | 新評論社 | 1955 | * |
| 10. 本歴史逸話集 | 実業の日本社 | 1955 | * |
| 11. 国語教育論 | 明治図書 | 1955. 9. 20 | # |
| 12. 教師のための作文教育法（編） | 河出書房 | 1956. 11 | * |
| 13. おはなし世界史 | 実業の日本社 | 1956 | * |
| 14. 作文教育－学習指導のあゆみ | 東洋館出版社 | 1957. 4 | |

15. 矛盾の中の道徳教育	百合出版	1957	*
16. 新しい道徳教育	国土社	1957	*
17. たぬき学校	講学館	1958. 10	* #
18. 生活綴方の認識と表現	明治図書	1959. 2. 20	#
19. さんきゆうさん	理論社	1960. 5	* #
20. できる子にする教育	明治図書	1960. 5	#
21. 作文の授業入門	明治図書	1961. 4	
22. 講座・生活綴方第2巻	百合出版	1961. 11. 10	
23. 講座・生活綴方第3巻	百合出版	1961. 12. 25	
24. 『よみかき くりかえし じてん こくご おうらい』	講学館	1962. 4	*
25. 講座・生活綴方第1巻	百合出版	1962. 11. 20	
26. 講座・生活綴方第4巻	百合出版	1962. 4. 15	
27. 講座・生活綴方第5巻	百合出版	1963. 4. 15	
28. 教育生活五十年—わたしの生活綴方—	百合出版	1969. 6. 30	#

II 今井誉次郎の署名による雑誌論文等1

ここでは、今井誉次郎の署名による雑誌論文等1として、今井の活動の中心であったと考えられる二つの雑誌（『明かるい学校・あかるい教育』『月刊作文研究・作文 先生と生徒・作文と教育』）から掲出した。

1. ★円卓会議★ 日本教育の反省 =羽仁五郎氏をかこんで=	明かるい学校	1946. 7
2. 初一・二の実際指導（低学年のページ）	明かるい学校	1946. 7
3. 初一・二の実際指導（低学年のページ）	明かるい学校	1947. 1
4. 社会科実践の第一歩	明かるい学校	1948. 1
5. 社会科単元のえらび方—西多摩案を例として—	あかるい教育	1948. 6
6. 教えない夏休み	あかるい教育	1948. 8
7. 話題二つ（教育ペン）	あかるい教育	1948. 9
8. 新しい学級経営について	あかるい教育	1949. 4.5
9. 日本の現状を見つめて	あかるい教育	1950. 3
1. 若い友への手紙—こんどこそ、人間を	月刊作文研究	1950. 11
2. 特集農村教師と農村教育・自分たちでやること —農村教育の実践について—	月刊作文研究	1951. 5
3. 統一的な現実認識	作文と教育	1952. 3
4. 「つづり方か・作文か」（座談会）	作文と教育	1952. 4

5. 作文教育全国協議会の意義	作文と教育	1952. 7・8
6. 小砂丘さんの酒と人と経営と思想	作文と教育	1952. 10
7. 小ざかしい批評について - いまだに「生活綴方」への疑問を 抱く人びとに -	作文と教育	1952. 12
8. 日本の教育と生活文 - 劣等感的国語教育を排せよ -	作文と教育	1953. 5・6
9. 生活綴方教育の本質 - ひとつの社説をめぐって - 毎日新聞四月二十日付「投書」欄 ・生活綴方の意義	作文と教育	1953. 5・6
10. 第二回作文教育全国協議会に寄せる・日本の教育の 事実にもとづいて	作文と教育	1953. 8
11. 生活綴方と創造美育 - 話し合いのいとぐちを作るために -	作文と教育	1953. 12
12. 生活綴方および作文教育に対する謬見をきる ・御意見ありがたく	作文と教育	1953. 12
13. 文策について (座談会)	作文と教育	1954. 1
14. 体育と生活綴方	作文と教育	1954. 1
15. 美しい道・あいだ君の思出<太細雑記>	作文と教育	1954. 2
16. 時局と作文教育・教育の政治的中立と作文教育	作文と教育	1954. 4
17. 教育委員長の一言<ふとぼそ雑記>	作文と教育	1954. 4
18. 教師の記録の最近の傾向 - 第二回小砂丘賞選考後の感想 -	作文と教育	1954. 5
19. とんだちぐはぐ<ふとぼそ雑記>	作文と教育	1954. 5
20. なぜしるか<ふとぼそ雑記>	作文と教育	1954. 6
21. [組織について] (巻頭言)	作文と教育	1954. 11
22. お子さん方へのお話	作文と教育	1955. 1・2
23. 国語教育の道を一につに - 第四回教育研究大会から帰って -	作文と教育	1955. 3
24. 国語教育と作文の指導 (シンポジウム・話題提供)	作文と教育	1955. 5
25. 読書案内 (わたしたちのことばと文字・子ども会)	作文と教育	1955. 5
26. 足もとを見つめる安全な教育のために	作文と教育	1955. 7
27. わたくしたちの会について思うこと - 雑談的に作文教育運動の発展をねがいながら - (座談会)	作文と教育	1955. 10
28. 「考えの形」は「文の形」(一)	作文と教育	1955. 11
29. 「考えの形」は「文の形」(二)	作文と教育	1955. 12
30. あたらしい顧問の紹介	作文と教育	1955. 12
31. 知られない伝統☆但馬・丹波の巻☆	作文と教育	1955. 12
32. 「考えの形」は「文の形」(三)	作文と教育	1956. 1

33. 作文教育の現状とこれからのみち (座談会)	作文と教育	1956. 1
34. 百田宗治先生をしのんで ・わたくしが横車をおしたこと	作文と教育	1956. 2
35. 南方の旅三題	作文と教育	1956. 2
36. 考えの形は文の形 (四)	作文と教育	1956. 3
37. 考えの形は文の形 (五) -一元論への歩み-	作文と教育	1956. 4
38. 第五次教育研究全国集会に参加して・情操教育雑感	作文と教育	1956. 4
39. 作文の眼・われわれが当面する課題 ・第2回作文教育サークル代表者合宿研究会 における一般状勢報告から	作文と教育	1956. 5
40. 文学教育における作文指導のなうべき諸問題 (座談会)	作文と教育	1956. 5
41. 考えの形は文の形 (第六回) -一元論への歩み(つづき)-	作文と教育	1956. 5
42. いま、改訂されつつある、あたらしい学習指導要領 になにをのぞむか-第2回サークル代表者合宿研 究会の討論のなかから- (座談会)	作文と教育	1956. 5
43. 考えの形は文の形 (第七回) -考えをふかめる文の形-	作文と教育	1956. 6
44. 考えの形は文の形 (Ⅷ) -正しい物の見方・考え方と文の形-	作文と教育	1956. 7
45. 第5回作文教育研究大会 ★第二回、作文教育問題別研究協議会 (分科会) ではこういうことについて話しあいたい ☆第1分科会・作文で、もののみかた・考えかた をどうそだてるか (起案)	作文と教育	1956. 7
46. 私の書架 (5)・積惟勝著『集団に育つ子ら』	作文と教育	1956. 7
47. 第五回作文教育研究大会を迎えて	作文と教育	1956. 8
48. 考えの形は文の形 (Ⅸ) -自然の認識から社会の認識へ-	作文と教育	1956. 8
49. 大会雑感-第五回作文教育研究大会を終って	作文と教育	1956. 9
50. これからの作文教育の重点・作文教育研究協議会 ・よい生活をさせる作文教育-形象理論の科学的 ・実証的な発展を (パネル・ディスカッション)	作文と教育	1956. 9
51. 随想・オタマサマ	作文と教育	1956. 10
52. 第五回大会にメッセージをくださった世界各国の、 つづり方を愛するかたがたへ	作文と教育	1956. 10
53. 談話室	作文と教育	1956. 11
54. 悪文についての反省	作文と教育	1956. 11
55. 確信をもって実践しよう (巻頭言)	作文と教育	1957. 1

56. わたくしの年賀状	作文と教育	1957. 1
57. 57年度作文教育実践のねらい (座談会)	作文と教育	1957. 1
58. 考えの形は文の形<10>-役人の文と国民の文-	作文と教育	1957. 1
59. 考えの形は文の形 (11) -授業の中での一元的取扱い-	作文と教育	1957. 3
60. 生活綴方と郷土教育および生産教育 (対談) ☆作文教育資料 (5) ☆	作文と教育	1957. 3
61. すべての教科の中に作文教育の方法を (巻頭言)	作文と教育	1957. 4
62. 夢多き「児童の村」と「綴方生活」 (対談) ☆作文教育資料 (6) ☆	作文と教育	1957. 4
63. 第3回合宿研究会における研究の整理 [I] ・生活文 (生活つづり方) を頂点とする作文教育 の領域について	作文と教育	1957. 5
64. 算数教育と作文教育-作文法の手はじめ- (座談会)	作文と教育	1957. 5
65. 第六回作文教育研究大会の意義	作文と教育	1957. 7
66. 作文教育と音楽教育-作文法の手はじめ (2) - (座談会)	作文と教育	1957. 8
67. 私のページ・ニワトリまんだん	作文と教育	1957. 8
68. 新しい人づくりと作文教育・第六回作文教育研究 大会におけるシンポジウム	作文と教育	1957. 9
69. 大村にて-なかまと被害のことなど-	作文と教育	1957. 9
70. 理科のしごと・作文のしごと-作文法研究の 手はじめ (3) - (座談会)	作文と教育	1957. 9
71. 小砂丘忠義・没後20年 (巻頭言)	作文と教育	1957. 11
72. 文集の研究・「めだかのこ」 (山森百合子指導 ・一年生の文集)・感覚を通して導びく文と 絵の書かせ方	作文と教育	1957. 11
73. 「新しい道徳」編集について	作文と教育	1957. 12
74. 道徳教育問題とわたくしたち (座談会)	作文と教育	1958. 1
75. 実践も理論も前進している (巻頭言)	作文と教育	1958. 2
76. 談話室★長い文を送ってください	作文と教育	1958. 2
77. もと「綴方生活」同人長谷建のこと	作文と教育	1958. 2
78. 低学年社会科の新構想	作文と教育	1958. 3
79. あとがき	作文と教育	1958. 3
80. 集団づくりの理論化のために	作文と教育	1958. 5
81. 第四回作文教育合宿研究会における研究と討議の まとめ・ことばの獲得と自己および仲間意識の 確立-どういふ作文指導が真の教育になるか-	作文と教育	1958. 5
82. 第四回作文教育合宿研究会全体協議会	作文と教育	1958. 5

83. 第四回作文教育合宿研究会分科会・作文法について	作文と教育	1958. 5
84. 生活つづり方的道徳教育の遺産 (1)		
・修身から社会科へ		
- 野村芳兵衛著「生活訓練と道徳教育」から -	作文と教育	1958. 6
85. 第七回作文教育研究大会について (巻頭言)	作文と教育	1958. 7
86. 作文の眼・天と地のまちがい		
- アジア競技大会でのできごと -	作文と教育	1958. 7
87. 作文の眼・生活つづり方運動に対する忠告	作文と教育	1958. 7
88. 大会のために・第5分科会・今日の教師の生き方	作文と教育	1958. 8
89. これからの国語教育と、作文教育 - 指導要領の改訂 を前にして - (座談会)	作文と教育	1958. 8
90. 学習指導要領各教科改訂案「国語」批評		
- 走り書きの覚え書き -	作文と教育	1958. 9
91. 一九五八年度日本作文の会・会員総会	作文と教育	1958. 9
92. 第7回作文教育研究大会・第5分科会		
・今日の教師の生き方	作文と教育	1958. 10
93. 生活つづり方的道徳教育の遺産 (2)		
・修身から綴方へ		
- 木村文助著「悩みの修身」から -	作文と教育	1958. 11
94. 編集室 (あとがき)	作文と教育	1958. 11
95. 戦後生活綴方教育運動史研究・1・ 戦後生活綴方教育の発展について		
- 話を引き出すために -	作文と教育	1958. 12
96. 上庄こと、上田庄三郎さんのこと	作文と教育	1958. 12
97. 日本作文の会編集『生活綴方事典』を完成して (座談会)	作文と教育	1958. 12
98. 編集室 (あとがき)	作文と教育	1958. 12
99. わたしたちは、どのように歩いてきたか - 「日本作文の会」の発足まで - (「作文と教育」 発刊10年記念座談会)	作文と教育	1959. 1
100. 作文指導の系統化について	作文と教育	1959. 1
101. 編集室 (あとがき)	作文と教育	1959. 1
102. 自主的な教育研究 (巻頭言)	作文と教育	1959. 2
103. 編集室 (あとがき)	作文と教育	1959. 2
104. 笑いを忘れぬ教師であるために	作文と教育	1959. 3
105. 生活綴方的教育方法適用の誤り	作文と教育	1959. 4
106. 編集室 (あとがき)	作文と教育	1959. 4
107. 教育のための作文集 - まえがきにかえて - (一九五九年版日本児童文詩集)	作文と教育	1959. 4. 臨増
108. このごろ思うこと	作文と教育	1959. 5

109	わたしの創意と技術 話せるようにすることと話す ように書かせること	作文と教育	1959	5
110	主として「文の書き出し」の指導に関連して －みつるちゃんの記事に学ぶこと－	作文と教育	1959	6
111	教育の本質をめざして■作文教育運動の前進の ために■北部集会報告 (三)生活綴方の認識 と表現－理論学智－	作文と教育	1959	7
112	編集室 (あとがき)	作文と教育	1959	7
113	第8回作文教育研究大会について	作文と教育	1959	8
114	合宿研究会から 「認識と表現」の統一を くどくとしくいうわけ	作文と教育	1959	8
115	作文の眼 正体を見ととけよ	作文と教育	1959	8
116	第8回作文教育研究大会 作文教育研究協議会 における提案 第9分科会教師生活のあり方	作文と教育	1959	8
117	社会科学習指導要領の徹底的批判的解釈と実践 (1) 労働と賃金	作文と教育	1959	9
118	一九五九年度 日本作文の会 会員総会	作文と教育	1959	9
119	社会科学習指導要領の徹底的批判的解釈と実践 (2) 家族	作文と教育	1959	10
120	この作品をとう見るか とう指導したらよいか (東西対抗討論)	作文と教育	1959	10
121	第8回大会 作文教育研究協議会の討論総括 第9分科会 教師生活のあり方	作文と教育	1959	10
122	会員のページ 大会の反省とわれわれの活動	作文と教育	1959	10
123	社会科学習指導要領の徹底的批判的解釈と実践 (3) 物価	作文と教育	1959	11
124	談話室 上田庄三郎先生の書いた日本一短い手紙	作文と教育	1959	12
125	思想づくりと生活綴方	作文と教育	1960	1
126	昔の子とも 今の子とも－戦前 戦後の教育と児童 像の変ほうのあとをたどりながら 今日の教育の あり方 一九六〇年代の作文教育の課題をさぐる－	作文と教育	1960	1
127	編集室 (あとがき)	作文と教育	1960	1
128	国語教育における作文の位置とその評価 [特集] 作文教育における正しい評価とは何か 作文教育 の評価－その本質究明と三学期間の指導実践の 反省から－	作文と教育	1960	3
129	今年度教研集会をかえりみて	作文と教育	1960	3
130	編集室 (あとがき)	作文と教育	1960	4
131	文章を書く意図などについて－まえがきにかえて－			

(一九六〇年版日本児童文詩集)	作文と教育	1960. 4. 臨増
132.生活つづり方をはなれる—というコトバについて —無着君に	作文と教育	1960. 5
133.作文教育と図画教育(座談会)	作文と教育	1960. 5
134.編集室(あとがき)	作文と教育	1960. 5
135.編集室(あとがき)	作文と教育	1960. 6
136.“山びこ”と“25歳”のあいだ—教育・教師・生活 綴方、記録をめぐる座談会—	作文と教育	1960. 7
137.第9回作文教育研究協議会・第④分科会・作文教育と 「道徳」・提案	作文と教育	1960. 7
138.第九回作文教育研究大会によせて	作文と教育	1960. 8
139.観察文の新方向について	作文と教育	1960. 8
140.編集室(あとがき)	作文と教育	1960. 8
141.この作文と詩をどう見るか、どのように指導して いくか(共同討議)	作文と教育	1960. 9
142.作文の眼・切捨てられる先生農業	作文と教育	1960. 10
143.作文の眼・テロリストを作るものはたれか—浅沼氏の 死を悼んで—	作文と教育	1960. 11
144.第九回大会分科会の総括—討論を —そう発展させるために—	作文と教育	1960. 11
145.教科学習と作文	作文と教育	1960. 12
146.成田さんをしのぶ・成田さんのけんそんさについて	作文と教育	1960. 12
147.作文憲法第一条(年頭にあって)(巻頭言)	作文と教育	1961. 1
148.わたしの考え	作文と教育	1961. 1
149.作文の眼・父母・国民の教育要求がさかんに出た —子どもを守る文化会議—	作文と教育	1961. 1
150.文集を昼つくるために	作文と教育	1961. 2
151.61年度教育研究全国集会に参加して =われわれの課題を探る=(座談会)	作文と教育	1961. 3
152.矢川徳光さんの還暦と「ソビエト教育学入門」	作文と教育	1961. 3
153.下中弥三郎さんのこと	作文と教育	1961. 4
154.より本質をつかんで書く文も—第八回合宿研究会 のための一つの提案—	作文と教育	1961. 4
155.片岡並勇さんをしのんで・日本作文の会常任委員会を 代表して	作文と教育	1961. 5
156.中国へ行ってきました	作文と教育	1961. 5
157.書評・『一年生の教育学』	作文と教育	1961. 6
158.はじめに(一九六一年版日本児童文詩集)	作文と教育	1961. 7. 臨増
159.えん罪	作文と教育	1961. 8
160.談話室・日本作文の会のみなさんへ	作文と教育	1961. 11

161. 中国からのたより	作文と教育	1961. 12
162. あたりまえの反省 (巻頭言)	作文と教育	1962. 1
163. 世界の作文教育1・中国の作文教育	作文と教育	1962. 1
164. 談話室 ■ 小川さんからのご注意	作文と教育	1962. 3
165. 作文の眼・法則のちがう面	作文と教育	1962. 3
166. 概括的表現の創造的実践のために	作文と教育	1962. 4
167. 《書評》『また逢う日には』-朝鮮学生の手記-	作文と教育	1962. 4
168. 授業研究「成長記録の指導をめぐって」	作文と教育	1962. 6
169. 談話室 ■ 日本人が悪いのではない	作文と教育	1962. 6
170. 「詩や文学はわからない」で平気でいられる人	作文と教育	1962. 6
171. 生活綴方運動と北方教育の運動 (はじめに)		
- 「北方教育の遺産」 -	作文と教育	1962. 7. 臨増
172. 第11回作文教育研究大会を迎えて	作文と教育	1962. 8
173. はじめに (一九六二年版日本児童文詩集)	作文と教育	1962. 10. 臨増
174. 図々しいおとな?	作文と教育	1962. 11
175. 文章表現指導の時間をうんとふやせ		
- 63年を迎えるに当って -	作文と教育	1963. 1
176. 【本の紹介】タカクラ・テル著「たまをあらそう」	作文と教育	1963. 3
177. 子どもへの愛情をさらに強いものに		
- 新学期を迎えることば -	作文と教育	1963. 4
178. 実践に自信を持とう		
- 第十二回作文教育研究大会の意義	作文と教育	1963. 8
179. 地域の作文教育を盛にしよう	作文と教育	1963. 9
180. はじめのことば (1963年版日本児童文詩集)	作文と教育	1963. 9. 臨増
181. ■ 生活綴方と表現形体		
「概念くだき」と概括的表現	作文と教育	1963. 11
182. 新しい年を迎え、研究実践にはげもう	作文と教育	1964. 1
183. 子どものなかの日本		
- 民主主義は、どこまで身につけてきているか -	作文と教育	1964. 4
184. 二つの学校の実践と生活綴方の伝統	作文と教育	1964. 5
185. はじめのことば (1964年版日本児童文詩集)	作文と教育	1964. 7. 臨増
186. よろこびの表現を生みだすために		
- 第13回作文教育研究大会によせて -	作文と教育	1964. 8
187. 近藤益雄の教育詩-その死をかぎりなくいたむ-	作文と教育	1967. 8
188. 新年のことば (文集を見ていて思うことなど)	作文と教育	1965. 1
189. 65年版「年刊・日本児童文詩集」まえがき	作文と教育	1965. 7. 臨増
190. 人生の廃業か (病床随筆)	作文と教育	1965. 10
191. 生活綴方の先駆者 小砂丘忠義<1>	作文と教育	1967. 4
192. 生活綴方の先駆者 小砂丘忠義<2>	作文と教育	1967. 5
193. 生活綴方の先駆者 小砂丘忠義<3>	作文と教育	1967. 6

194.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<4>	作文と教育	1967. 7
195.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<5>	作文と教育	1967. 8
196.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<6>	作文と教育	1967. 9
197.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<7>	作文と教育	1967. 11
198.生活綴方東北旅行の断片		作文と教育	1967. 11
199.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<9>	作文と教育	1967. 12
200.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<10>	作文と教育	1968. 1
201.1968年頭の自己反省		作文と教育	1968. 1
202.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<11>	作文と教育	1968. 2
203.生活綴方の先駆者	小砂丘忠義<終>	作文と教育	1968. 3
204.民族の教育者	小砂丘忠義	作文と教育	1968. 3
205.「灯をつぐ子ら」を読んで		作文と教育	1968. 4
206.文部官僚は神話をも校閲する		作文と教育	1968. 12
207.天然ガラストースと峰地さん		作文と教育	1969. 4

Ⅲ 今井誉次郎の署名による刊行図書所収論文等

1.小砂丘忠義と『綴方生活』

『生活綴方と作文教育 教育建設3』

金子書房 1952. 5. 25

2.まえがき

日本作文の会 『生活綴方の伝統 小砂丘忠義15周年忌念論稿集』

百合出版 1953. 2. 15

3.生活綴方の始祖—小砂丘忠義小伝—

日本作文の会 『生活綴方の伝統 小砂丘忠義15周年忌念論稿集』

百合出版 1953. 2. 15

4.生活綴方と子どもの心の成長

小川太郎・国分一太郎 『生活綴方的教育方法』

明治図書 1955. 10. 20

5.序にかえて

三浦東吾・福井作文の会 『生活綴方と道徳教育』

明治図書 1958. 9

6.主として生活綴方的教育方法について

国民教育編集委員会 『生活綴方の探究』

誠信書房 1958. 11. 25

7.京都の仲間たちの仕事—序にかえて— (監修)

京都作文教育研究会 『楽しい作文の授業—系統性をふまえた実践の記録』

明治図書 1961. 3. 4

IV 今井誉次郎の署名による雑誌論文等2

ここには「II 今井誉次郎の署名による雑誌論文等1」以外のものを掲出した。

1. 社会科とその参考書をめぐる (座談会)	生活学校	1948. 8
2. 批判から実践へ - 国語教科書編集をおわって -	新しい教育と文化	1948. 8
3. 農村の学校のカリキュラム	生活学校	1949. 2
4. 講座・新しい実践のために・指導案 というもの△指導案のつくり方 第一回△	教育1	1951. 11
5. 講座・新しい実践のために・国語科 指導案《指導案のつくり方第二回》	教育2	1951. 12
6. 講座・新しい実践のために・社会科 指導案《指導案のつくり方第三回》	教育3	1952. 1
7. 書評・わたしは裸である - 「まい にちの社会科記録」の書評にこ たえる -	教育4	1952. 2
8. われらなにをなすべきか - 若い教師 のために - (座談会)	教育6	1952. 4
9. 貧しさとたたかう教育《実態調査》	教育16	1953. 2
10. 手のつけようがないのか	教師の友	1953. 4
11. 日本歴史の学習指導細案	教育21	1953. 7
12. 教師生活と文字・「別冊教育」 選後評 (座談会)	教育25	1953. 11
13. 重い石の下で	教育26 (別)	1953. 11
14. 「一事が万事」というよう	教育27	1953. 12
15. 《教師と子ども》人間教師おぼえがき	教育31	1954. 4
16. あたりまえのこととあたりまえで ないこと、人間教師おぼえがき (2)	教育32	1954. 5
17. 親たちに信頼される教師 - 人間教師 おぼえがき (3)	教育33	1954. 6
18. 国語教育の成長のために	実践国語	1954. 6
19. 作文教育はどれだけ前進したか - 作文教育の動向	教育技術小四	1954. 8
20. 教師の文学をめぐって - 「臨時 増加・教師の文学」選後評 (座談会)	教育42	1955. 1
21. 第四次教研大会推進のために		

(座談会)	教育43	1955.2
22.教育のために書かせること	実践教育	1955.2
23.小学三年生の文集—児童文集は どうあるべきか—	教育技術小三	1955.3
24.「死ねっ、はい」にはきりかえ られぬ—つづり方か作文か—	教育技術小一	1955.8
25.こどものことばと国民性	カリキュラム	1956.5
26.作文をやらない教育がありうるか —作文指導でねらうもの—	小一教育技術	1956.8
27.作文の指導体系をどう考えるか	小六教育技術	1956.8
28.幼年の文学	幼年の文学	1956.9
29.社会的展開をみた作文教育 —戦後10年国語教育はどう 歩んできたか—	教育技術	1956.10
30.中学生の作文指導はどこでどの ようにやるか	教育技術中等教育	1956.10
31.日本作文の会の課題 —人間教育をめざして—	教育65	1956.11
32.わたしはローマ字教育をこう思う	ことばの教育	1956.11
33.わが批判者に答える —ローマ字教育について—	ことばの教育	1956.12
34.教研集会の成果を教科研・研究集会 にいかにかうけつぐかくその1・国語>	教育72	1957.2
35.「教師の文学」をめぐる	教育74	1957.7
36.人権にめざめた道徳教育の確立	教育82	1957. 臨増
37.生活つづり方と道徳教育	児童心理12-1	1958.1
38.高学年社会科の新構想	教育86	1958.4
39.社会科の新構想について —桑原さんへ—	教育88	1958.6
40.系統的な文章表現指導のために	実践国語19-213	1958.7
41.新指導要領をめぐる批判の論点	教育科学国語教育	1959.3
42.認識と表現を統一的に指導する	教育科学国語教育	1959.8
43.集団の認識と表現	現代教育科学	1959.8
44.教育課程の自主性と教師	教育110	1960.1
45.「書きことば」中心の指導	教育科学国語教育	1960.2
46.作文による共通語指導	教育科学国語教育	1960.8
47.さまざまな音読のくふうについて	教育科学国語教育	1961.1
48.書く力を伸ばすための練習	教育科学国語教育	1961.11
49.国語における創造性の育成と指導	児童心理16-2	1962.2

おわりに

今井誉次郎は、江馬泰・エマヤスシ・吉見影一のペンネームによって、童話・童謡・小説・教育論文などを著した。小説『窄き門』は、1940年の芥川賞候補作となっている。「書くことによって自己改造を」のことばどおり広く著作活動を行った。今後、機会を得て、戦前の著作も加え、さらに他の署名によるものも含め、その全体像を詳細に明らかにしていきたい。

付記

本稿は、書誌的研究の準備段階のものであり、公表するには時期尚早であったかもしれない。データを集めていたことをご存じであった前田貞昭氏から、今回『近代文学雑誌』の創刊に際し、領域が異なるにもかかわらず、未熟なものを発表する機会を与えていただいた。深謝申し上げる。